

プロジェクト名

- I. カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト
アルムナイ教員による教育活動、および教員養成大学への支援
- II. カンボジアにおける学校保健教育の普及プロジェクト

プロジェクトの背景と目的

- I. カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト**
アルムナイ教員による教育活動、および教員養成大学への支援
- 目的：
1. 貧困農村地域の教員研修生が故郷に帰って優秀な教員となり、地方から優れた人材を輩出し続けるようになること。
 2. 教員研修生の生活水準が向上し、勉学に集中できるようになること。
 3. プノンペン教員養成校卒業生（アルムナイ）に対するアップグレード研修、およびアルムナイによる研究発表会、教育活動を支援することで学校教員の技能向上を図る。
 4. アルムナイ教員による学校とコミュニティーとの関係強化活動を支援することで、より民主的で持続可能な教育環境の構築を目指す。
- 背景：
1. プノンペン教員養成学校研修生は、プノンペンのほか、コッコン、ブレアビヒア、スタントレン、ラタナキリ、モンドルキリといった貧困農村地域の出身で、故郷の小学校、中学校の教員になるための、2年制の教員養成課程。
 2. 教員研修生は、カンボジア王国政府から月額4万リエル（10米ドルに相当）を支給されているが、日常生活を維持するには十分な額ではない。
 3. 研修生の多くは、食料確保の為、帰省することがあるが、勉学に影響を与えると共に、交通費負担も生じる。
 4. 教育省は2019年度より全国6か所の教員養成課程を、2年制から4年制へとカリキュラムを順次再編する事を発表。しかしシステム再編にかかるカンボジア全土の教師の技能アップデートが追いついておらず、見通しも立っていない。現在、プノンペン、バタンバン の2校で4年制のコースが開始しているが、未だ2年制も並行して運営されている状態である。
 5. 2019年度の統計では、全国に1,739の中学校と525の高等学校が登録されており、小学校数(7,228)に対して不足していた中学・高校の数も、カンボジア政府が目指した「全ての町(commune)に中学校、すべての区(district)に高等学校」という、数の上での目標は達成された。その一方で、保護者の教育に対する理解は低く、学校を中退し、家庭の生活を支える労働力として駆り出されるケースが多い。小学校入学時には434,600人いる児童数が、中学入学時には247,024人、高校入学時には128,693人と右肩下がり半減し、高校卒業生数においては、小学校入学者数の僅か18%の79,052人という状況で、高学年になるにつれ就学率の低下が顕著である(Education Indicators, 2017/2018)。また、Kizunaが実施した教師とコミュニティーを対象にした意識調査においては、学校とコミュニティー間における、教育環境や、取り組むべき課題、問題解決に向けた話し合いの機会が不十分であるという、学校側とコミュニティー相方で自覚が確認されており、学校とコミュニティー間の希薄な関係が、保護者の教育への理解と学校運営の妨げとなっている。
 6. 「生徒の学習到達度調査(PISA)」は、OECDが2000年から3年ごとに加盟国を対象に実施している国際比較テストであり、義務教育修了段階の15歳児(日本では高校1年生)が持つ知識や技能を実生活の様々な場面にどれだけ活用できるかを評価するものである。ASEAN諸国からは、先発国のシンガポール、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシアが参加。後発国からは2016年よりカンボジアが唯一、途上国枠で新設されたPISA-D(Pisa for Development)グループでエントリーされている。PISAの中で、読解リテラシーは「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組むこと」と定義されている(PISA2015)。これは読解リテラシーが学力の向上の基礎となること

を示唆するもので、カンボジアにおける教育の質の向上を通じた教育の発展に不可欠な能力である。2017年のPISA-Dテストにおいてカンボジアの生徒の読書パフォーマンスは、他の数学と科学のスコアに比べ、PISA-D平均（346スコアポイント）を大幅に下回っており、設定されている最低レベルに達した生徒は、シンガポールの生徒の90%近くが達しているのに対し、カンボジアは全体の僅か8%という結果であった。PISA-D2017の結果をまとめたカンボジア教育省の報告書では、過去のOECD加盟国とASEAN諸国の結果から数学と科学のパフォーマンスの向上は読書のパフォーマンスの向上と強く関連する傾向があり、学生の読書リテラシーの向上が他の科目の学生のパフォーマンスに反映する、と結論づけている（MoEYS, Education in Cambodia, Findings from Cambodia's experience in PISA for Development, 2018, P-28）。

II. カンボジアにおける学校保健教育の普及プロジェクト

目的：

1. 実践的な学校保健の教育モデルが構築されること。
2. 元日本財団奨学金受給者であるアルムナイ教員たちが中心となり、保健セクターや地域住民と協力し、持続可能な学校保健システムの運営ができるようになること。

背景：

1. 青少年の健全な心身の成長に欠かせない「学校保健教科」であるが、カンボジアにおいては、教育青年スポーツ省(MoEYS)内の体育スポーツ総局が作成した、2007年から2008年に製作された小学校保健体育指導要領と保健体育指導書の中に組み込まれた(JICA 草の根事業)。しかし、省内における保健人材の不足から、体育スポーツの部分のみに実施は限定され、保健部分が欠落されたまま、小中学校、および教員養成の現場で使用されている。
2. MoEYSでは、2014年に始まった教育改革の一環として、保健教科を体育とは独立した1科目としてカリキュラムとし、小学校1年から高校3年まで、週に1時間の学校保健科授業の実施導入を決定。それまで教育現場への保健啓蒙活動を主に担当していた学校保健局が、シラバス、カリキュラムおよび教科書の作成を担当している。
3. 学校保健教育に関する経験と専門知識を持たない学校保健局は、カンボジア国内で活動する、医療系NGOに各専門分野についてのシラバス、および教科書の製作を委託しているが、教材の完成および研修計画は難航している。
4. 教員養成学校では、東京学芸大学の支援で、小学校および中学校のカリキュラムに対応できる教員を指導する保健専門教官の養成を実施しているが、保健教育を受けた教員が全国の学校現場に派遣されるまでには、今後最低20年以上の時間を要する。
5. 一方、キズナが、2008年より日本財団助成事業として実施してきたプノンペン教員養成校研修生への奨学金給付により、現在2,433名の卒業生（アルムナイ）が地方を中心に教員として活躍している。2016年10月には、その現場で活躍するアルムナイによる教育の質と学校環境の向上にむけた活動支援が開始された。全アルムナイの3割を超す750名が若手教員として学校に勤務する、カンボジア南西部のコクコン州では、8つの中学校で、アルムナイが中心となり、地域住民と協力し、学校の緑化や環境美化の活動を開始している。コクコン州は小学校116校（生徒数17,327名）、中等学校28校（生徒数：7,070名）があり、全校にアルムナイが勤務することが確認されている。
6. また、キズナはEnglish is Funという非英語専門教員でも英語を教え、教えることを通し、英語を学べる教材を開発した経験があり、他科目でこの知識を活用できることが考えられる。
7. 2020年3月16日に、新型コロナウイルスの感染対策として休校していたカンボジア全土の教育機関であるが、MoEYSは段階的な公立学校の再開を開始しており、保健衛生機能を義務づけた学校再開のためのガイドラインが8月25日に発表された。これに基づき教育省学校保健局は、キズナに全国に配布する学校保健室マニュアルの制作支援を要請した。

期待される成果

I. カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト

アルムナイ教員による教育活動、および教員養成大学への支援

	<ol style="list-style-type: none"> 1. プノンペン教員養成大学生中学校コース3年生 250 名が、15 回のリテラシー授業と 30 回の読書時間（50 分/1 回）を通じて、読書習慣を体得しながら、カンボジアの教育発展に必要な、考える力、読解リテラシー能力を獲得する事で、教員としての資質が高まる。 2. 卒業後、生徒の学力向上の土台となる読書の授業を赴任校で実践できるようになる。 3. 意識の高い教員が海外研修を通じて、カンボジアとは異なる海外の教育システムと教育の取り組みを学び、その経験を地方教育の質向上に活用する。 4. 教員として活躍する、教員養成校同窓生（アルムナイ）を中心とした教育事業、研究発表会開催およびアップグレード研修を支援することで、教育分野におけるニーズ・課題の把握と、問題解決に向けた取り組みを進め、地域における教育環境および、教育の質が向上する。 5. 同窓生によるネットワークを強化することで、カンボジア全土の教員同士の交流・情報共有が進み、教育現場の質が向上する。 6. 学校とコミュニティーとの関係が強化され、民主的で持続可能な教育環境が構築される。 <p>II. カンボジアにおける学校保健教育の普及プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 政府の学校保健教育計画（仮称）に沿った保健の運営が、12 の中学校で実施される。 2. 製作する非保健専門教員でも使用できる保健教材で、学校保健科の授業が実施される。 3. 学校保健室と近隣の医療セクターとの連携が構築される。 4. キズナが制作する保健室マニュアルが全国の公立学校に配布される。 5. 全生徒の身体および体力データの収集解析のためのシステムが構築される。 6. 学校ハーブ園システムの導入により持続可能な保健教育体制が構築される。
<p>プロジェクト概要</p>	<p>I. カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト アルムナイ教員による教育活動、および教員養成大学への支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>教員育成学校支援の実施</u>（前身から数えて 16 ヶ年目） <ol style="list-style-type: none"> (1) 2020 年終了の奨学金事業に変わる教員養成大学への新規支援案件に向けた調査。 (2) 研修生の読書習慣の獲得と読解リテラシー能力向上を目指した授業の開発支援。 (3) 研修生約 100 名に対する芸術課外クラブ活動支援。 (4) 少数民族地域に赴任予定のプノンペン教員養成校在学研修生 24 人が、在学中に少数民族の文化と言語を理解するための課外(クラブ)活動支援。プノンペン教員養成大学で試行を重ね、バタンバン教員養成大学への事業拡張も予定している。 2. <u>教員アルムナイ活動支援の実施</u> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教員として活躍するプノンペン教員養成校アルムナイ 2,433 名(2008-2020)に呼びかけ、アルムナイ中学校英語教員による、小学校教員に対する英語研修の事例、芸術教員アルムナイ達による教員養成校研修者を対象としたクラブ活動実施事例、アルムナイ校長を対象としたリーダーシッププログラム、少数民族地域の言語の壁を払拭するための取り組み等を、発表し共有する学術発表会の開催。また、学校保健事業の紹介や、授業を活性化させるレクレーションゲームについてのアップグレード研修、及び手作り教材に関するコンテストの実施。 (2) モチベーションの高い地方の若手アルムナイ校長 12 名を対象としたリーダーシップ研修プログラムを実施し、国内、海外（タイ、ミャンマー、日本）のモデル校から学校運営についての事例を学ぶ。 (3) モチベーションの高い英語科、芸術科、その他のアルムナイ教員と共に、都市部と地方の教育環境格差撤廃を目指し、学習の補助教材やレクレーション、ゲームの開発、普及活動を支援。 (4) 国内で失われつつある伝統音楽および舞踊を次世代に残すため、モチベーションの高い芸術科アルムナイと共に、教員養成校研修生を対象とした芸術クラブ活動を行う。 (5) アルムナイおよび外部から、手作り教材の事例を収集し、学校の授業に活用できるテキストを制作する。

	<p>(6) 2020年に終了した中等学校英語カリキュラム開発支援へのフォローアップと追跡調査を通して、教員のアップグレード研修、及び教育格差の是正と教育の質向上へ繋がるニーズ調査を実施。</p> <p>II. カンボジアにおける学校保健教育の普及プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> 非保健専門教員用学校保健教材キットの作成 <ul style="list-style-type: none"> 中学2年生と3年生用。(2020年度に中学1年生用制作)生徒用テキスト教材(紙芝居、アニメーション、カードゲーム)と教員用指導教材 アルムナイへの研修実施(コッココン州9校、プノンペン都3校) 中学校におけるパイロット授業実施(2021年1月から) <ul style="list-style-type: none"> パイロット中学12校(アルムナイ勤務校) 中学生約600名 身体測定(年2回)と体力測定(年1回)の実施とデータ解析 保健室システムの運営 <ul style="list-style-type: none"> モデル中学校12校とコッココン州モデル校周辺22の小学校 パイロット校の図書室や職員室の一部を活用 保健室備品(簡易ベッド、身体・体力測定器)の提供 保健室担当者はアルムナイ教員が担う 学校長・保健室担当教師・地域住民・保健所・生徒による保健委員会を設置 保健委員会への研修実施 保健室維持のための資金調達モデルの構築 <ol style="list-style-type: none"> 学校ハーブ菜園システムの導入 <ul style="list-style-type: none"> 生徒が育成したハーブを提携企業が原材料として購入するシステム 収益は保健室運営資金に充てる(100-300ドル/年) ハーブ菜園の設置と、換金作物の育成から販売までの講習会実施 地域のニーズに併せた地元の有用植物で薬草見本園を設置 伝統医療師による薬草レクチャーの開催 生徒及び教員を対象とした公衆衛生や食事の内容など生活習慣についての調査
--	---

活動の周知	<p>I. カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト アルムナイ教員による教育活動、および教員養成大学への支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 教員養成学校での事業説明、および地方の卒業生配属先学校訪問により本事業の周知をはかる。 HPを通じて、教育関係者、潜在的支援者、メディア等に対して本事業の周知をはかる 各地でのワークショップおよび開催イベントを通じ、本事業の周知をはかる。 HPを通じて、教育関係者、潜在的支援者、メディア等に対して本事業の周知をはかる。 <p>II. カンボジアにおける学校保健教育の普及プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ホームページや冊子で教育関係者、潜在的支援者、メディア等に本事業の周知を図る。 定期開催の教員アルムナイ会議で事業の進捗と成果を共有する。 	
実施地	カンボジア 26 都市	
プロジェクト予算 (単年)	<p style="text-align: right;">米ドル</p> <p style="text-align: center;">719,200 米ドル</p>	プロジェクト実施機関 開始： 2021年1月1日
日本財団への申請額	<p style="text-align: right;">281,600 米ドル</p>	終了： 2021年12月31日
その他助成	<p>前年度繰越金</p> <p style="text-align: center;">437,605.13 米ドル</p>	助成金支払い希望日： 2020年12月：140,800 米ドル 2021年6月：140,800 米ドル

<p>プロジェクトの画期的・独創的な側面</p>	<p>I. カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト</p> <p>1. <u>カンボジアにおける教員育成支援の実施</u></p> <p>(1) 新たな初等中等教育の改善に繋がる活動に発展する。</p> <p>(2) KIZUNA を主体として、卒業生（各出身地の教師）とのネットワークが確立される。</p> <p>(3) 研修生と KIZUNA の間に信頼関係が築かれ、今後の KIZUNA の他の活動を効果的に実施できるようになる。</p> <p>2. <u>カンボジアにおける教員アルムナイ活動支援の実施</u></p> <p>(1) 元奨学生の教員（アルムナイ）達が、教育現場の経験を活かし、教育の質向上と環境整備に向けた研修、および独自で発案する教育プログラムを実施する。</p> <p>(2) カンボジアでは初めてとなる教員によるネットワーク、および学校とコミュニティーによる学校開発モデルの構築。</p> <p>II. カンボジアにおける学校保健教育の普及プロジェクト</p> <p>1. 元日本財団奨学生のアルムナイ教員達を中心となり、地域住民や保健セクターと協力し、実践的な保健教育システムを構築する。</p> <p>2. 非保健専門教員たちでも授業実施が可能な保健教材の開発。</p> <p>3. 保健を専門としないアルムナイ教員によって、これまでカンボジアでは普及していない保健室が管理運営される。</p> <p>4. キズナ制作の保健室マニュアルが全国の学校で公的に活用される。</p> <p>5. 学校ハーブ園の運営により、地域の有用資源の知識を得ると共に、収益により持続可能な保健システムの維持が可能になる。</p>
--------------------------	--

<p>プロジェクトから期待される効果・長期的影響</p>	<p>I. カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト</p> <p>1. <u>カンボジアにおける教員育成支援の実施</u></p> <p>(1) 教員養成校学校にて安定的に2年間の教職課程を修了できるようになり、</p> <p>(2) カンボジアにおける教育の質の向上につながる。</p> <p>(3) 養成期間中勉学に専念することが可能となり、質の高い教員の育成が望める。</p> <p>2. <u>カンボジアにおける教員アルムナイ活動支援の実施</u></p> <p>(1) アルムナイ教員達のネットワーク強化で、教員同士の交流が生まれ、課題共有や問題解決など、教育の質向上に向けた機運が高まる。</p> <p>(2) アルムナイ教員同窓生によるネットワークおよび学校とコミュニティーとの関係強化のモデルを構築することにより、カンボジア全土の教員同士の交流が促され、現場の教師達による自発的な活動が全国に生まれるためのモデル事業となる。</p> <p>II. カンボジアにおける学校保健教育の普及プロジェクト</p> <p>1. 学校における保健教育が実施されるようになり、国力増進の要である青少年の心身育成の重要性を、カンボジア政府が理解する。</p> <p>2. 学校保健室と医療セクターの連携が強化され、学校現場におけるリスクマネジメントが強化される。</p> <p>3. 児童・生徒の身体および体力データが掌握されることにより、保健体育計画が改善される。</p> <p>4. ハーブ園運営で得られる収入で、持続可能な学校保健システムが運営される。</p>
------------------------------	---

評価方法・検証手段	<p>評価方法、客観的に証明可能な指標、プロジェクトの成功を測るためのデータなど、プロジェクトの成果や影響をどのように評価するかを述べよ。</p> <p>I. カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員養成学校を卒業し、教師となった研修生を訪問し、インタビュー等を通して、事業効果を検証する。 2. 教員養成学校研修生を対象に事業効果を検証する為のアンケート調査を実施する。 3. 研修生及び養成学校の教官を対象にインタビューを行い、事業効果を検証する。 4. アルムナイのいる学校を訪問し、インタビュー等を通して、事業効果を検証する 5. アルムナイ、地域住民を対象に事業効果を検証する為のアンケート調査を実施する。 <p>II. カンボジアにおける学校保健教育の普及プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モデル学校を訪問し、教師、保護者、生徒へのインタビュー等を通して、事業効果を検証する。 2. モデル学校を訪問し、教師、保護者、生徒を対象に事業効果を検証する為のアンケート調査を実施する。 3. 事業研修に関わる、教官実習生、教育省学校保健局、および NGO 団体職員を対象にインタビューを行い、事業効果を検証する。 4. キズナ制作の保健室マニュアルが MoEYS の手で全国の学校に配布される。
-----------	---

複数年プロジェクトに関する情報のみ：プロジェクト実施期間6年の2年目。

プロジェクト実施期間	2020年1月1日～2025年12月31日	
プロジェクト予算総額	日本円/米ドル/ユーロ 4,925,400 米ドル	日本財団への助成申請額 4,925,400 米ドル

実施スケジュール

プロジェクト活動	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
プロジェクト期間	2020年 1月1日 ～2020年 12月31日	2021年 1月1日 ～2021年 12月31日	2022年 1月1日 ～2022年 12月31日	2023年 1月1日 ～2023年 12月31日	2024年 1月1日 ～2024年 12月31日	2025年 1月1日 ～2025年 12月31日
プロジェクト年間予算	967,000 米ドル	719,200 米ドル	809,800 米ドル	809,800 米ドル	809,800 米ドル	809,800 米ドル
プロジェクト内容	教員養成 ・教員養成校への奨学金、研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 英語 ・高校英語教科書作成 ・高校教員養成校への研修実施 学校保健 ・学校保健教材開発と授業実施 ・保健室開設 ・学校ハーブ園	教員養成 ・教員養成校への研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 学校保健 ・学校保健教材開発と授業実施 (コクコン州中学9校) ・保健室開設 ・学校ハーブ園 (コクコン州中学9校、プノンペ	教員養成 ・教員養成校への研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 学校保健 ・学校保健教材開発と授業実施 (コクコン州中学28校/全校) ・保健室開設 (コクコン州中学28校、小学	教員養成 ・教員養成校への研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 学校保健 ・学校保健教材開発と授業実施 (コクコン州中学28校/全校) ・保健室開設 (コクコン州中学28校、小学	教員養成 ・教員養成校への研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 学校保健 ・学校保健教材開発と授業実施 ・保健室開設 ・学校ハーブ園 (プレアビヒア州中学14	教員養成 ・教員養成校への研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 学校保健 ・学校保健教材開発と授業実施 ・保健室開設 ・学校ハーブ園

	(コッコ州中学9校)	ン校3校+小学22校)	校116校/全校)	校116校/全校)	校、小学校10校)	(プレアヴィア州中学14校、小学校10校)
	コアモデル校づくり	コアモデル校からのクラスターモデル校への指導	マニュアル化拡散期	マニュアル化拡散期	他州での実証トライアル	他州での実証トライアル。政府への移譲
プロジェクト予算	米ドル 4,925,400 米ドル	日本財団への助成申請額	米ドル 4,925,400 米ドル			
実施地	カンボジア 26 都市					